

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4723234号
(P4723234)

(45) 発行日 平成23年7月13日 (2011.7.13)

(24) 登録日 平成23年4月15日 (2011.4.15)

(51) Int. Cl.

F I

B 6 5 D 5/54 (2006.01)

B 6 5 D 5/54 3 0 1 E

B 6 5 D 77/30 (2006.01)

B 6 5 D 77/30 B

請求項の数 4 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2004-367986 (P2004-367986)
 (22) 出願日 平成16年12月20日 (2004.12.20)
 (65) 公開番号 特開2005-200106 (P2005-200106A)
 (43) 公開日 平成17年7月28日 (2005.7.28)
 審査請求日 平成19年12月6日 (2007.12.6)
 (31) 優先権主張番号 特願2003-423649 (P2003-423649)
 (32) 優先日 平成15年12月19日 (2003.12.19)
 (33) 優先権主張国 日本国 (JP)

(73) 特許権者 593100547
 ハーゲンダッツジャパン株式会社
 東京都港区元赤坂 1-2-3
 (73) 特許権者 000002897
 大日本印刷株式会社
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
 (74) 代理人 100082005
 弁理士 熊倉 禎男
 (74) 代理人 100067013
 弁理士 大塚 文昭
 (74) 代理人 100065189
 弁理士 穴戸 嘉一
 (74) 代理人 100082821
 弁理士 村社 厚夫

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 易開封性カートン

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

側面、天面、側面、底面、糊代片をそれぞれ折れ線を介して連設し、前記天面の両側辺にはそれぞれ前面と後面を折れ線を介して連設し、前記底面の両側辺にはそれぞれ前下面と後下面を折れ線を介して連設し、前記両側面の両側辺にはそれぞれ前下折り込み片と後下折り込み片を折れ線を介して連設したカートンブランクを組み立ててなるカートンで、前記天面に並行する開口用破断線を設け、前記前面に前記開口用破断線に連続して開封用破断線を設け、該開封用破断線および前記開口用破断線を引き裂くことにより、前記天面および前記前面の一部をそれぞれ開口用開閉部分および開封用開閉部分として開口可能とした易開封性カートンであって、

前記前面の中央に前記開封用破断線の間隔を狭くして前記開封用開閉部分から突出する形状の摘み部を設け、

再封時に、前記摘み部を前記前面及び前記前下折り込み片の間に差し込むことを特徴とする易開封性カートン。

【請求項 2】

前記係止部は、前記前下面の上辺中央部に位置していることを特徴とする請求項 1 に記載の易開封性カートン。

【請求項 3】

前記係止部の上辺が、山形であることを特徴とする請求項 1 に記載の易開封性カートン。

。

【請求項 4】

前記天面において、前記開口用破断線が、前記天面と前記両側面の間の折れ線よりも内部にあることを特徴とする請求項 1 に記載の易開封性カートン。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、中に収納した内容物を取り出し易くした易開封性カートンの構造に関し、特に再封性を向上させた易開封性カートンに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、食品、菓子等を包装するカートンにおいて、易開封性が付与されているタイプのカートンの代表的なものとして、図 6 - a に示すように、前面から天面に渡る開閉部分を設けた横置きタイプのものが知られている。この易開封性カートン 2 は、前面の一部からなる摘まり部分を引っ張り、一対の開封用破断線 q、q に沿って前面を破断し、一対の開封用破断線 p、p に沿って天面を破断することにより、図 6 - b に示すように、開封用開閉部分 Q および開口用開閉部分 P を開けることで内容物を取り出すようになっている。そして、この易開封性カートンにおいては、差し込み片 M および差し込み口 N を設けることによって、再封して内容物を保存することができるよう工夫されたものが広く知られている。このように、一旦開けた開封用開閉部分 Q および開口用開閉部分 P は、差し込み片 M を前下面に切り込みで設けた差し込み口 N に差し込んで閉じて再封するような形状が多く使用されている（例えば、特許文献 1 参照。）。 10 20

【0003】

【特許文献 1】特開平 9 - 193926 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、このような再封が可能な易開封性カートンにおいては、再封のために差し込み片 M を差し込み口 N に挿入しようとしても、紙が反発して挿入しづらいという欠点があった。この差し込み片 M を挿入しづらいという欠点を補うために、差し込み片 M に直線状の折罫を設けた形状の易開封性カートンがあるが、再封する際に起こる差し込み片 M の部分の紙の反発を抑えることができたが、折ぐせがついてしまっただけで、再封性が低下するという問題がある。 30

【0005】

本発明は上述した問題を解決することを課題とし、易開封性カートンにおいて、開封が容易であり、かつ、再封性が良好な形状の易開封性カートンを提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、請求項 1 に記載したように、側面、天面、側面、底面、糊代片をそれぞれ折れ線を介して連設し、前記天面の両側辺にはそれぞれ前面と後面を折れ線を介して連設し、前記底面の両側辺にはそれぞれ前下面と後下面を折れ線を介して連設し、前記両側面の両側辺にはそれぞれ前下折り込み片と後下折り込み片を折れ線を介して連設したカートン 40

を組立ててなるカートンで、前記天面に並行する開口用破断線を設け、前記前面に前記開口用破断線に連続して開封用破断線を設け、該開封用破断線および前記開口用破断線を引き裂くことにより、前記天面および前記前面の一部をそれぞれ開口用開閉部分および開封用開閉部分として開口可能とした易開封性カートンであって、

前記前面の中央に前記開封用破断線の間隔を狭くして前記開封用開閉部分から突出する形状の摘まり部を設け、

再封時に、前記摘まり部を前記前面及び前記前下折り込み片の間に差し込むことを特徴とする易開封性カートンである。

【0007】

10

20

30

40

50

本発明の実施態様は以下のとおりである。

請求項 2 記載の実施態様は、前記係止部は、前記前下面の上辺中央部に位置していることを特徴とする請求項 1 に記載の易開封性カートンである。

【0008】

請求項 3 記載の実施態様は、前記係止部の上辺が、山形であることを特徴とする請求項 1 に記載の易開封性カートンである。

【0009】

請求項 4 記載の実施態様は、前記天面において、前記開口用破断線が、前記天面と前記両側面の間の折れ線よりも内部にあることを特徴とする請求項 1 に記載の易開封性カートンである。

10

【発明の効果】

【0011】

本発明における易開封性カートンによれば、開封用開閉部分を開封した時に表出する前下面の一部である係止部の内側に開封用開閉部分の摘み部を差し込むことにより、再封が容易にでき、かつ、外れにくく再封性が良好であるという効果を有するものである。また、通常の易開封性カートンの製造工程で行うことができ、生産工程の変更を行うことなく製造できるという効果も有している。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

以下、再封性の良好な本発明の易開封性カートンの実施の形態について図を用いて詳細に説明する。

20

【0013】

図 1 は、本発明の易開封性カートンの一実施例を示す斜視図である。易開封性カートン 1 は、前面 16、天面 12、後面 17、底面 14、両側面 11、13 からなる直方体のカートンであり、天面 12 には、一对の並行する開口用破断線 p、p が設けられ、前面 16 には、開口用破断線 p、p に連続して一对の開封用破断線 q、q が設けられ、該開封用破断線 q、q および開口用破断線 p、p を引き裂くことにより、前面 16 の一部の開封用開 6 の中央辺縁は、開封用開閉部分 Q が開封しやすいように開封用破断線 q、q 間の幅を狭くして摘み部 16a としている。

【0014】

30

図 2 は、図 1 の易開封性カートン 1 の開閉部分を開けた状態を示す斜視図であり、前面 16 の摘み部 16a を摘んで開封し、前面 16 の開封用開閉部分 Q および天面 12 の開口用開閉部分 P を開口した状態を示している。この開口した状態で、易開封性カートン 1 の中に収納されている商品を取り出すことができる。そして、開封用開閉部分 Q を開口した状態で開封口 Q' から表出した前面 16 の下面となる前下面 18 の係止部 18a (斜線部分) と前下折り込み片 20、22 との間に前面 16 の摘み部 16a を差し込むことにより再封することができる。

【0015】

図 3 は、図 1 の易開封性カートン 1 を組み立てるブランクを示す展開図であり、ブランク 14、糊代片 15 が連設され、天面 12 の右左の辺には折れ線 e、f を介してそれぞれ前面 16 と後面 17 が連設され、底面 14 の右左の辺には折れ線 g、h を介してそれぞれ前下面 18 と後下面 19 が連設され、そして、側面 11 の右左の辺には折れ線 i、j を介してそれぞれ前下折り込み片 20、後下折り込み片 21 が連設され、側面 13 の右左の辺には折れ線 k、l を介してそれぞれ前下折り込み片 22、後下折り込み片 23 が連設されている。

40

【0016】

また、天面 12 には、横方向に一对の開口用破断線 p、p を設けられている。この一对の開口用破断線 p、p により囲まれる領域は開口用開閉部分 P となり、天面 12 の一对の破断線 p、p が破断され開口される。この一对の開口用破断線 p、p は必ずしも平行である必要はなく、傾斜した線であってもよい。また、開口用破断線 p は直線ではなく、曲線で

50

あってもよい。従って、開口用開閉部分 P の形状は、四辺形、台形が基本であるが、種々の形状とすることができる。なお、開口用破断段線 p、p は折れ線 a、b よりも天面 1 2 の内部にあってもよい。内部にあると、開封後においても成形性が保たれ、内容物の取出しがスムーズになる。一对の開口用破断線 p、p は、破断しやすいように、Y 字状切れ目、L 字状切れ目、ミシン目などで設けることが好ましい。

【0017】

また、前面 1 6 には、天面 1 9 の開口用破断線 p、p に連続して一对の開封用破断線 q、q が設けられている。この一对の開封用破断線 q、q により囲まれる領域は開封用開閉部分 Q となり、前面 1 6 の一对の開封用破断線 q、q が破断され開封される。また、この開封用破断線 q、q は辺縁では指で摘まみやすいように、間隔を狭くし摘まみ部 1 6 a を設けることが好ましい。この摘まみ部 1 6 a を摘まみ、開封用破断線 q、q を切り裂くことから開封を始めることができる。この摘まみ部 1 6 a は、開封用開閉部分 Q から突出して設け、形状は、例えば、半円形、台形、三角形等とすることができる。

10

【0018】

また、前下面 1 8 の形状は、易開封性カートンを組み立てた状態で、上に重ね合わされる前面 1 6 の開封用開閉部分 Q を開封した時に、開封口 Q' の下部で前下面 1 6 a の一部が係止部 1 8 a として表出する形状とする。その係止部 1 8 a の内側に、開封した開封用開閉部分 Q を差し込むことにより、再封することができる。従って、摘まみ部 1 6 a が差し込み易いように、係止部 1 8 a は前下面 1 8 の上辺中央部に位置すること、そして、係止部 1 8 a の上辺が山形であることが好ましい。

20

【0019】

上記のブランク 1 0 から易開封性カートン 1 を組み立てて商品を収納するには、まず、図 4 - a に示すように、底面 1 4 を折れ線 c で側面 1 3 側に折返し、つぎに、側面 1 1 を折れ線 a で天面 1 2 側に折り曲げて、糊代片 1 5 と側面 1 1 とを貼り合わせて、図 4 - b に示すように、折り畳んだ状態の易開封性カートン 1 とすることができる。

【0020】

つぎに、このサック貼りして折り畳んだ状態の易開封性カートン 1 を、図 4 - c に示すように、実際に内容物を充填する工程で角筒状に起こし、両方の後下折り込み片 2 1、2 3 を内側に折り曲げてから、後下面 1 9、後面 1 7 の順にそれぞれ内側に折り曲げて互いに接着することにより、図 4 - d に示すように、一方の側を閉鎖する。この状態で他方の側面開口から内容物を充填する。このように内容物を収納した後、図 4 - e に示すように、両方の前下折り込み片 2 0、2 2 を内側に折り曲げてから、前下面 1 8、前面 1 6 の順にそれぞれ内側に折り曲げて互いに接着することにより他方の側を閉鎖する。これにより図 1 に示す易開封性カートン 1 が作成される。

30

【0021】

上記のような方法以外に、易開封性カートン 1 を折り畳んだ状態にしないで内容物を収納する、いわゆるラップラウンド方式の充填方法においても充填包装を行うことができる。すなわち、ブランクの状態から直接内容物を包装する方法で、ブランク 1 0 において底面 1 4 に内容物を載置し、それぞれの面で包むようにし、糊代片 1 5 と側面 1 1 を貼り合わせ、前下面 1 8 と前面 1 6、後下面 1 9 と後面 1 7 とを貼り合わせるることによって図 1 に示す易開封性カートン 1 が作成される。なお、係止部 1 8 a の裏面については糊付けを避けるようにする。摘まみ部 1 6 a の挿入を妨げないようにするためである。

40

【0022】

図 1 の易開封性カートン 1 を開封するには、従来の易開封性カートンと同様、図 5 - a に示すように、前面 1 6 の摘まみ部 1 6 a を摘んで引っ張り上げ、そして、摘まみ部 1 6 a の横への開封用破断線 q、q を引き裂いて開封用開閉部分 Q を開封しはじめる。引き裂いて前面 1 6 の開封用開閉部分 Q を開封した後に、図 5 - b に示すように、天面 1 2 の天面開封部分 P を両側の開口用破断線 p、p に沿って引き裂くことにより、図 2 に示すように、開封用開閉部分 Q と天面開封部分 P が開口された状態とする。この状態で収納されている商品を取り出すことができる。

50

【 0 0 2 3 】

そして、一旦開けた開閉部分を再封する際には、開封用開閉部分 Q を開封した後に開封口 Q' から表出する前下面 1 8 の係止部 1 8 a を、前下折り込み片 2 0、2 2 との間に差し込んで係止することができる。

【 0 0 2 4 】

なお、本実施例においては易開封性カートの展開図を図 1 の形としているが、易開封性カートの形は自由に形成することができ、その形状は、立方体、多角柱、かまぼこ型等とすることができる。

【 0 0 2 5 】

また、使用される材料としては、紙が主として用いられるが、紙以外の材料として、ポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレート等のプラスチックシート等も使用することができる。さらに、紙とプラスチック、金属箔等からなる積層体を材料として使用することもできる。

【実施例】

【 0 0 2 6 】

以下、本発明による易開封性カートの実施例について説明する。

【 0 0 2 7 】

まず、坪量 3 1 0 g / m² の板紙（商品名：ウルトラ H（大昭和製紙株式会社製））の表面に絵柄、文字などの印刷を、オフセット印刷で施した。印刷の表面には、プレス加工により艶出しの表面加工も行った。この多面付けで印刷および表面加工を行った枚葉状の面紙から図 3 に示すような所定の形のブランクに打ち抜いた。

【 0 0 2 8 】

つぎに、底面 1 4 を折れ線 c で側面 1 3 側に折返し、つぎに、側面 1 1 を折れ線 a で天面 1 2 側に折り曲げて、糊代面 1 5 と側面 1 1 とを貼り合わせて、折り畳んだ状態の易開封性カートン 1 とした。

【 0 0 2 9 】

つぎに、このサック貼りして折り畳んだ状態の易開封性カートン 1 を、実際に内容物を充填する工程で角筒状に起こし、両方の折り込み片 2 1、2 3 を内側に折り曲げてから、後下面 1 9、後面 1 7 の順にそれぞれ内側に折り曲げて互いに接着することにより、一方の側を閉鎖する。この状態で他方の側面開口から内容物を充填する。このように内容物を収納した後、両方の折り込み片 2 0、2 2 を内側に折り曲げてから、前下面 1 8、前面 1 6 の順にそれぞれ内側に折り曲げて互いに接着することにより他方の側を閉鎖する。これにより図 1 に示す易開封性カートン 1 が作成した。

【 0 0 3 0 】

この易開封性カートン 1 は、前面 1 6 の摘み部 1 6 a を摘んで引っ張り上げ、そして、摘み部 1 6 a の横への開封用破断線 q、q を引き裂いて開封用開閉部分 Q を開封しはじめ、引き続いて前面 1 6 の開封用開閉部分 Q を開封した後に、天面 1 2 の天面開封部分 P を両側の開口用破断線 p、p に沿って引き裂くことにより、開封用開閉部分 Q と天面開封部分 P が開口された状態とすることができ、中に収納されている商品を取り出すことができた。

【 0 0 3 1 】

また、一旦開けた部分を再封する際には、開封用開閉部分 Q を前下面 1 8 の一部の開封口 Q' から表出した係止部 1 8 a の内側に摘み部 1 6 a から前下面 1 8 の一部が表出した係止部 1 8 a の内側に差し込むことによって、係止することができた。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 3 2 】

具体的な用例としては、菓子、食品等を収納するカートンに使用することができ、特に、内容物を取り出し易く、かつ、再封ができるカートンに広く利用できるものである。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 3 3 】

【図 1】本発明の易開封性カートンの一実施例を示す斜視図である。

【図 2】図 1 の易開封性カートンの開閉部分を開封、開口した状態を示す斜視図である。

【図 3】図 1 の易開封性カートンを形成するブランクを示す展開図である。

【図 4】ブランクから本発明の易開封性カートンを組み立てる工程を説明する図である。

【図 5】本発明の易開封性カートンの開封方法を説明する図である。

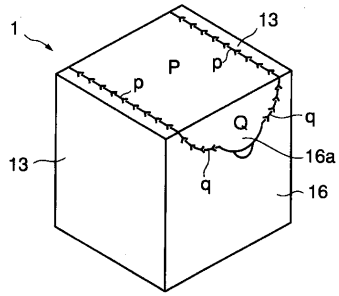
【図 6】従来の易開封性カートンの例を示す斜視図である。

【符号の説明】

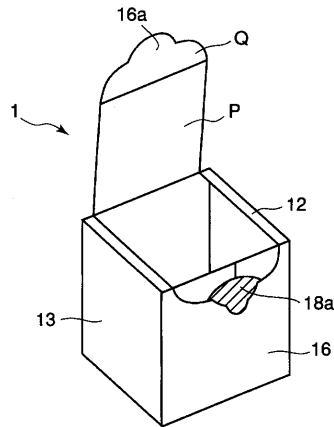
【 0 0 3 4 】

1	易開封性カートン	
2	従来の易開封性カートン	10
1 0	ブランク	
1 1	側面	
1 2	天面	
1 3	側面	
1 4	底面	
1 5	糊代片	
1 6	前面	
1 6 a	摘まり部	
1 7	後面	
1 8	前下面	20
1 8 a	係止部	
1 9	後下面	
2 0	前下折り込み片	
2 1	後下折り込み片	
2 2	前下折り込み片	
2 3	後下折り込み片	
p	開口用破断線	
q	開封用破断線	
P	開口用開閉部分	
Q	開封用開閉部分	30
Q'	開封口	
M	差し込み片	
N	差し込み口	
a ~ l	折れ線	

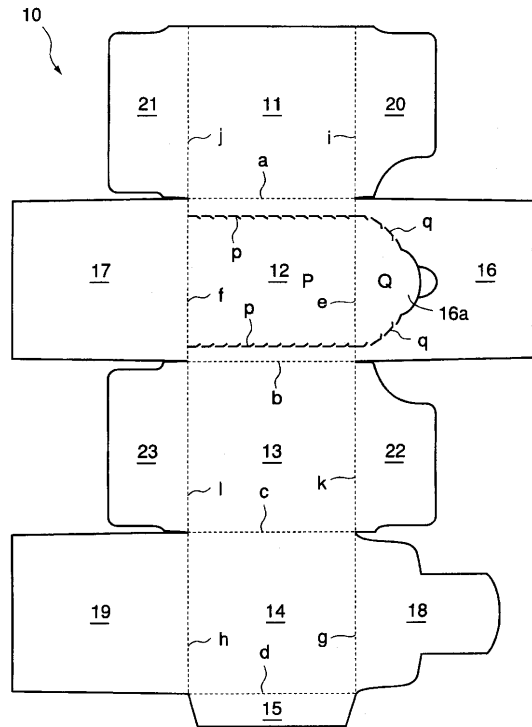
【図 1】



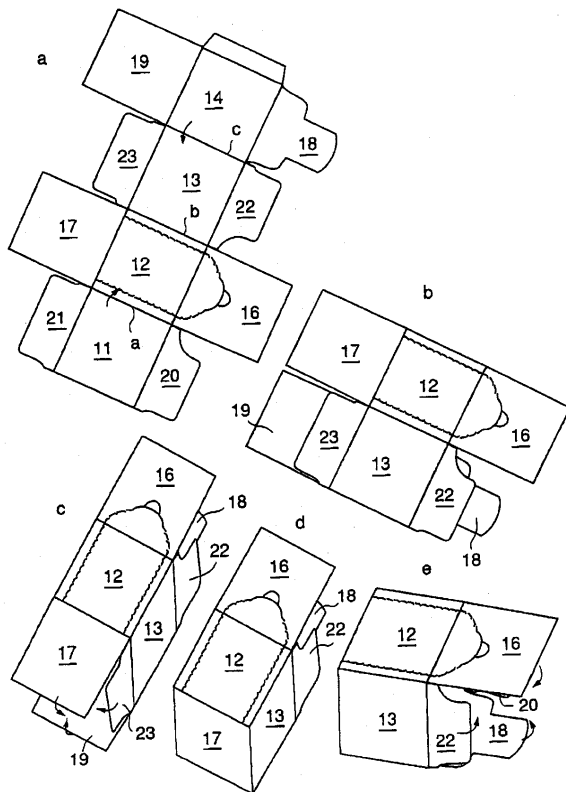
【図 2】



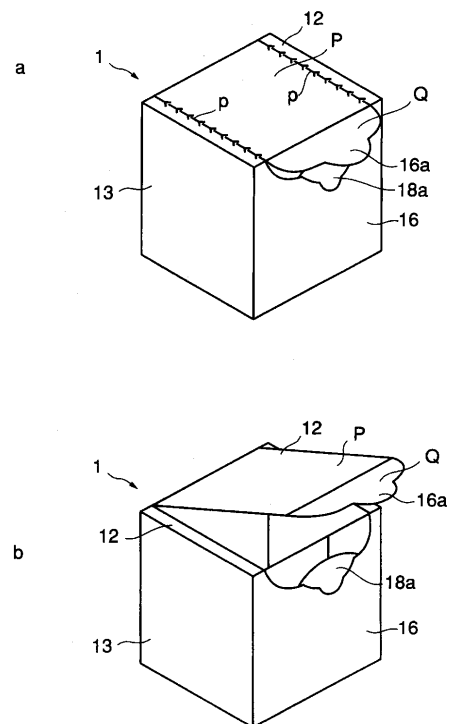
【図 3】



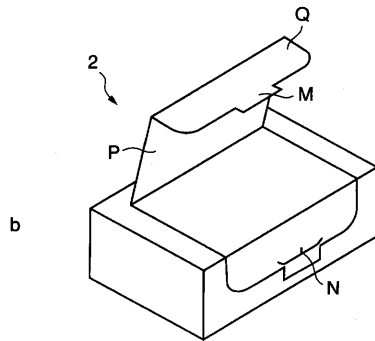
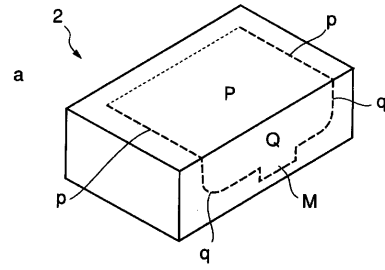
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(74)代理人 100088694

弁理士 弟子丸 健

(74)代理人 100103609

弁理士 井野 砂里

(72)発明者 山田 雄二

東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号 大日本印刷株式会社内

審査官 武内 大志

(56)参考文献 実開昭 5 4 - 0 6 1 8 1 9 (J P , U)

特開平 0 9 - 0 0 2 4 5 7 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

B 6 5 D 5 / 0 0 - 5 / 7 6

B 6 5 D 7 7 / 3 0